

経済、エコノミー概念の創造的変化

AN
INQUIRY
INTO THE
Nature and Causes
OF THE
WEALTH OF NATIONS.
By ADAM SMITH, LL.D. and F.R.S.
Formerly Professor of Moral Philosophy in the University of Glasgow.
IN TWO VOLUMES.
VOL. I.

LONDON:
PRINTED FOR W. STRAUCH, AND T. ADAMS, IN THE Strand,
NO. 43. 1790.

<https://ja.wikipedia.org/wiki/見えざる手>

アダム・スミスもジェームズ・スチュアートも当時はまだ「経済」という概念が確立していなかった時代に、現在の「経済・economy」という概念を顕在化させたと思います。当時一般に「economy」は「家事、家計」のように狭い意味で使われていたようです。「economy」の語源がギリシア語の「oikos・家」と「nomos・管理」から来ていると言われます。economyにPolitical(国、国家)を付け加えてeconomyの概念がふくらみました。漢字の「経済」は隋の時代の『文中子』礼楽篇に「皆有経済之道、謂経世済民」として初出し、「経済」と略して使われたと言われます。この時の「経済」は現代流に言えば「福祉を通しての国政」ということになると思います。現在使われている「経済」の概念を再確認して広めたのは福沢諭吉と言われています。

<https://szu-tokyo.jp/2024/07/29/economy/>

https://note.com/butai_biz/n/n1f3edc66b763

明治以降、日本に欧米の経済学が入ってきました。その時、欧米の経済学をどのように受け取っていたかは分かりません。決して何も新しい知識とはならなかったと思います。市場経済、非市場経済の概念も、金利、利子の概念も、為替、先物取引、投資、株などの概念があったことは知られています。だからこそ、江戸時代に世界の中でトップクラスの大阪や江戸の大都市が形成され、維持されていたのだと思います。いい意味でも、悪い意味でも100年以上の歴史を持つ企業が断トツに多いのも日本です。

<https://www.tdb.co.id/report/economic/20241024shinise2024/>

ピーター・ドラッカーは『マネジメント』を書くときに大いに参考にしたのが日本の老舗企業だったと言われます。日本の社会、経済の底流にあるのは外来文化を取り入れ、日本の実情に合わせて加工、変形しているマテリアル・精神構造にあるのかも知れません。最近、日本へ年間2千万人を超えるインバウンド外国人がやって来ますが、彼らのほとんどは日本の表層的なことに関心があっても、なかなか深層までは見ていない、見る事ができていないように思います。日本に長年住み、日本語を理解する少数の人達だけが日本の深層をたどり着いているように思います。日本人だからといって、皆が均等に深層にたどりついているわけでもなさそうです。私自身、深層があることに気付いただけで、まだ日本の精神構造の深層についてわからないこと、知らないことばかりです。